



西栗倉中学校だより

令和8年7月14日(火) 発行



15の春の自立を地域とともに目指す活力のある学校

(学校教育目標)

未来を拓き たくましく生きる力の育成 ～ 自律 協働 挑戦 ～

(校長雑感)

先日、星野ルネさんの人権講演会が2日連続で開催されました。(1回目は10日(金)の午後に中学生を対象として、2回目は11日(土)の午後に村PTA主催で保護者・子どもを対象として実施しました。)どちらの講演会にも参加した生徒もいましたが、中学校の講演会では、次の3つを目的としました。

- ・生徒一人ひとりが人権の大切さを理解し、他者を尊重する態度を育てる。
- ・日常生活の中で起こりうる差別や偏見について考え、自分の行動を見つめ直す機会とする。
- ・多様性を認め合い、安心して過ごせる学校づくりにつなげる。

星野さんの軽快な話術を通して、これらについて考える貴重な機会となりました。講演会後の振り返り用紙には、

- ・「自分の常識は誰かの非常識かもしれないし、自分の非常識は誰かの常識かもしれない」ことに気づき、広い視野を持つことの大切さに気付いた。
- ・偏見(勝手なイメージ)より経験(体験)した正しい情報をもとに判断していきたい。
- ・自分の思っていることがすべてではない。決めつけるのはよくない。

といった感想が寄せられ、生徒にもしっかりと講演の内容が伝わっていることをうれしく思いました。

現在の学校現場でよく使われる言葉に「協働的な学び」があります。本校の学校教育目標でも「協働」という言葉を掲げ、「みんなちがってみんないい 互いを認め合い、高め合う」としています。協働の良さは、自分とは異なる考えや経験をもつ人と協力することで、それまで気づかなかった新しい価値を見いだせることにあります。自分と違う考えを認めるためには、「そんな考え方もあるんだ」と共感的に話を聴くことから始まります。同じ目的に向かってどれだけ協力し合えるかは、学校だけでなく、これからの社会を生きていくうえでも大切です。そのためにも、相手を尊重する心を育てていきたいと考えています。

現在、国レベルでは、10年に一度の学校教育の基準となる「学習指導要領」の改訂作業が行われています。その中で、今回はじめて、誰もが安心して学べる学校づくりを検討するための「不登校ワーキンググループ」という会議が設置されています。これは、多様性が進む社会の中で、画一的な学校教育だけでは対応しきれない様々なケースが増えているためです。

本校でも、何らかの理由で学校に行きにくい、教室で授業を受けにくいと感じた時に、一旦休んだり、その後改めて歩み出したりする足がかりとなるよう、「ほっとルーム」(自立応援室)を設置しています。ほっとルームでは、ベテランの専任教師である松本主幹教諭(2代前の本校校長)が担当し、保健室の森本養護教諭をはじめ、藤原スクールカウンセラーや上田スクールソーシャルワーカーなど、専門的な立場から相談に応じるスタッフも関わっています。

このように、本校ではすべての生徒が安心して学校生活を送れるよう、様々な学びの機会や支援体制を整えています。些細な事で構いません、相談してみたいことがありましたら、いつでもお気軽にお声掛けください。